

A 類 社会選修 3 年生

オーストラリア・メルボルンへの短期留学プログラムは、毎日が初めての連続でした。まず、私はオーストラリアに行くことが初めてでした。プログラムで行ったメルボルンは、日本から来たことを言うと「日本？大好きだよ！」「いつか日本に行きたい！」と仰ってくださる方が多く、異なる国から来たからといって肩身の狭い思いをしなかったことが印象的です。英語がペラペラではない私は不安でしたが、多文化発祥の街と言われていたメルボルンの街中には、多様な人を受け入れる優しさに溢れた空間が出来ており、とても過ごしやすかったです。

また、私は日本以外の教育機関を見たことがありませんでした。このプログラムでは、メルボルン大学、モナシュ大学、メルボルン大学附属の幼稚園、公立のバイリンガル学校、イスラーム学校、私立の女子校を訪問しました。短期間でさまざまな種類の教育機関を見学し、話を聞くことで、驚いたこと、感動したこと、思ったこと、考えたことが沢山ありました。そういった様々な感情の中で、一番大きかったのはショックな気持ちでした。私は、教員志望のため、日本の教育に誇りを持っていたからかもしれません。日本にはない教育の豊かさを目の当たりにし、思うことや考えさせられたことが多くありました。また、これだけの教育機関を短時間で見学することによって、学校による差異を知ることができ、オーストラリアにおける教育の現状を深く知ることができました。

そして、最後に、私は英語でプレゼンをすることが初めてでした。英語でのプレゼンは、メルボルン短期留学におけるビッグイベントだったため、事前から何度も集まり話し合いをしたり、練習をしたりして修正を重ねました。英語でのプレゼンは、先生にご指導いただいたこともあり、安心して英語を話すことができました。また、英語でのプレゼンと同時に英語で話す機会が多くありました。英語を話すことで自分の考えが相手に伝わることや相手の気持ちを理解することが嬉しかった反面、日本語ならワンランク上の話をできるはずなのに、いざ英語になると稚拙な会話になってしまうことがとても悔しかったです。この経験を生かして、英会話を頑張りたいと思いました。

以上のように、オーストラリア・メルボルン短期留学は大変充実した毎日で、教員志望の私にとって、3月下旬は採用試験の勉強をする時期でしたが、それを考慮しても十分価値のある日々でした。勇気を出して参加して良かったです。(一部省略)